公務員デジタル人材育成モデル構築事業

〈事業成果報告書〉

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校が実施した令和7年度「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」の成果をとりまとめたものです。

学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校

本報告書の構成

01 事業の全体像と背景・課題 P3～
公務員志望者減・DXニーズ等の構造的課題整理

02 3か年計画と実施体制 P5～
R6調査・R7開発・R8実証のロードマップ

03 令和7年度の主な取り組み P7
モデル具体化フェーズにおける活動概要

04 開発した4科目の全体像 P8
キャリア形成軸・試験対策軸による体系化

05 科目別詳細 P9～
15コマ構成・コマシラバス・評価規準の具体化

06 令和7年度の成果 P27
「すぐ使える」レベルの教材・カリキュラム一式

07 委員会・視察を通じた観点 P28
形成的評価や正解のない問いへの対応

08 令和7年度事業総括 P29
開発モデルのまとめ

09 課題と今後の展望 P30～
主な課題と実証に向けた基盤整備

10 事業終了後の展開 P32
正課教育への定着と全国展開・自走モデル

01　事業の全体像と背景・課題

委託事業名

地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

公務員学科の高度化を目的とした3か年事業

デジタル社会に対応できる「新たな公務員像」を育成するモデルを構築

キャリア形成　デジタル　公務員育成

事業の目的

キャリアオーナーシップを軸としながら既存の「公務員試験対策」中心の教育から脱却し、デジタルスキルと主体的キャリア観を兼ね備えた人材を育成する教育課程への転換

代表機関

学校法人浦山学園 富山情報ビジネス専門学校

事業フェーズ

本年度は、令和6年度の調査結果に基づく「カリキュラム・教材開発」の実行フェーズ

01　事業の全体像と背景・課題

●キャリアオーナーシップの強化
●デジタルツール（AI等）を活用した課題解決能力

公務員のなり手不足

・試験倍率は約20年で半減
・「安定」だけでは人材を確保できない深刻な状況

行政DXへの対応高度化

・デジタル社会の進展による実務の複雑化
・データ活用やDX推進スキルが必須に

試験対策偏重の限界

・「合格」のみをゴールとするカリキュラム
・入庁後の実務に必要な課題解決力が育ちにくい

受動的なキャリア観

・仕事の中身が見えにくく、キャリアを描きにくい
・「社会課題に向き合う」魅力が伝わっていない

02　3か年計画と実施体制

令和6年度

調査・課題整理

現状分析と課題の明確化

- 公務員への実態把握調査
- 専門学校への実態把握調査
- 先行事例の調査・分析
- 人材育成モデルの方向性検討

令和7年度

開発・具体化

モデル具体化フェーズ

- キャリアオーナーシップ育成科目
- キャリアデザイン育成科目
- 公務員試験傾向分析科目
- 公務員試験直前対策科目

令和8年度

実証・全国展開

効果検証と普及

- 実証講座の実施・検証
- 教員向け指導教材の完成
- 教職員研修の実施
- 全国展開モデルの確立

令和6年度事業成果報告書
https://www.bit.urayama.ac.jp/data/6_information/mext/01/r06/report_r6.pdf

02　3か年計画と実施体制

産学官連携による推進体制を構築し、多角的な視点から事業を推進

教育機関（8校）

事業総括・調査・開発・検証

- 富山情報ビジネス専門学校（代表）
- 群馬法科ビジネス専門学校
- 専門学校穴吹ビジネスカレッジ
- 龍馬情報ビジネス＆フード専門学校
- 専門学校岡山情報ビジネス学院
- 専門学校坪内総合ビジネスカレッジ
- YIC公務員専門学校
- 富山県立大学（教育的意見提供）

企業・団体（4団体）

情報提供・普及・助言

- （一社）富山情報産業協会
- （一社）生成AI活用普及協会
- Avintonジャパン株式会社
- 合同会社ハピオブ

・デジタル人材育成の業界情報
・専門的知見の提供と助言
・最新技術情報の共有

行政機関（2機関）

情報提供・普及・協力

- 富山県
- 射水市

・公務員デジタル人材の情報提供
・公務員のITニーズ実態共有
・開発カリキュラムの普及促進

03　令和7年度の主な取り組み

「モデル具体化フェーズ」として、キャリア形成と試験対策の
具体的なカリキュラム設計および教材開発を段階的に実施。

STEP 01

キャリア形成科目

1年次前期「キャリアオーナーシップ育成科目」： 公務員の魅力、なりたい自分、主体的キャリアの醸成
2年次後期「キャリアデザイン育成科目」： フィールドワーク、行政課題解決の実践

STEP 02

公務員試験対策科目

1年次後期「公務員試験傾向分析科目」:本格的な試験対策の前にAIを使用した効率的且つ情報分析の基礎を学習
2年次前期「公務員試験直前対策科目」:AIを活用した自律的な学習習慣を確立

STEP 03

教材レベルの具体化

全4科目でそれぞれ授業資料(シラバス・サンプルスライド等)を作成。授業運営・評価・教材を一体化したパッケージとして整備

STEP 04

委員会・視察による検討

委員会での議論や先進事例の視察を実施。現場の課題感や客観的な観点を設計へ反映

04　開発した4科目の全体像

キャリアオーナーシップ育成科目

1

公務員としての働き方や役割を理解し、自己の価値観や強みを言語化する

キャリアデザイン育成科目

2

社会・地域課題と自身のキャリアを接続し、就職後のWill・Can・Mustを具体化

公務員試験傾向分析科目

3

試験構造・出題傾向をデータで把握し、AIを活用して最適な学習計画を立案

公務員試験直前対策科目

4

作文・面接・記述対策にAIを活用し、直前期の学習効率と自己改善力を最大化

05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　設計思想

「安定志向」から脱却し、自律的にキャリアを描くためのマインドセットを醸成。
公務員試験対策以前の「なぜ働くか」を問う基礎科目として設計。

① 科目の必要性

・早期離職防止とミスマッチの解消
・「なんとなく公務員」ではなく、**自らの意思で選択する主体性**を確立する。

② 到達目標

・自身の価値観の言語化と、公務員像の具体化
・働く意義を自分事として語り、**進路選択の軸**を持つことができる。

③科目成果物の位置づけ

・目的ではなく「思考整理・記録」の補助手段
・ポートフォリオは**成長の軌跡の可視化**に活用

④ 評価方針

・成果物の完成度よりも**プロセス（変化・気づき）**を重視
・正解のない問いへの向き合い方を評価する形成的評価

05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　15コマ構成案

Phase 1：自己理解・職業理解

01
オリエンテーション
授業目的の共有と自己理解の導入

02
価値観の言語化
カードワークによる自己価値観の抽出

03
公務員リサーチ（導入）
Web検索による興味分野の探索

04
公務員リサーチ（深化）
公的データを用いた客観的理解

05
インタビュー準備
仮説構築と質問項目の設計

Phase 2：先輩対話・現場理解

06
先輩インタビュー①
現役公務員へのインタビュー実施（録画視聴等）

07
先輩インタビュー②
内容の整理と「働く軸」の抽出

08
グループ共有・対話
他者の気付きを通じた視点の拡張

09
公務員のリアル
現場のやりがいと厳しさの理解

10
Will-Can-Must①
自己と仕事の接点を探るフレームワーク

Phase 3：統合・言語化

11
Will-Can-Must②
作成シートの全体共有とフィードバック

12
キャリアプラン作成
今後の学生生活と進路の仮説立案

13
最終レポート作成
半期の学びの言語化と統合

14
成果発表会
グループ内での発表と相互評価

15
まとめ・接続
キャリアデザイン科目へのブリッジ

05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　コマシラバス（抜粋）

代表的なコマの構成例

第1回：オリエンテーション・自己理解　導入期

- ねらい：科目の意義理解、自己開示の心理的安全性醸成
- 学習活動：ライフラインチャート作成、価値観カードワーク
- アウトプット：ポートフォリオ（初期入力）、自己紹介シート

第5回：先輩インタビュー・考察　展開期

- ねらい：ロールモデル発見、働くイメージの具体化
- 学習活動：公務員OB/OGへのインタビュー、結果考察・共有
- アウトプット：インタビューシート、考察レポート

第10回：Will-Can-Mustと将来像　統合期

- ねらい：自己理解と社会要請の統合、キャリアビジョンの言語化
- 学習活動：Will-Can-Must整理、行動計画策定
- アウトプット：キャリアプランシート（素案）

コマ設計の重要ポイント

スパイラルアップ構造：「自己理解→他者理解→統合」のサイクルを繰り返し、認識を深める構成

対話の常設：全コマに「ペアワーク」「グループワーク」を配置し、他者視点による気づきを促す

評価・成果物との連動

ポートフォリオ活用：毎回のワークシートを蓄積し、単発ではなく「変化のプロセス」を可視化

振り返り重視：「何をしたか」だけでなく「どう感じ、どう考えが変わったか」の言語化を評価

デジタル・AIの活用

思考の補助：自己分析や言語化が苦手な学生に対し、生成AIを「壁打ち相手」として活用（第10回等）

効率化：インタビューの文字起こしや要約にAIを活用し、本質的な考察時間を確保

05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　評価の考え方

「正解の有無」を問う定期試験から、学生の意識変容とプロセスを可視化する「形成的評価」を重視

プロセス重視の評価設計

・毎回のワークシートや活動を評価
・「何を知っているか」より「どう変化したか」を重視

ポートフォリオによる可視化

・学習成果を蓄積し、成長の軌跡を可視化
・学生自身が過去の自分と比較し、メタ認知を促す仕組み

形成的評価

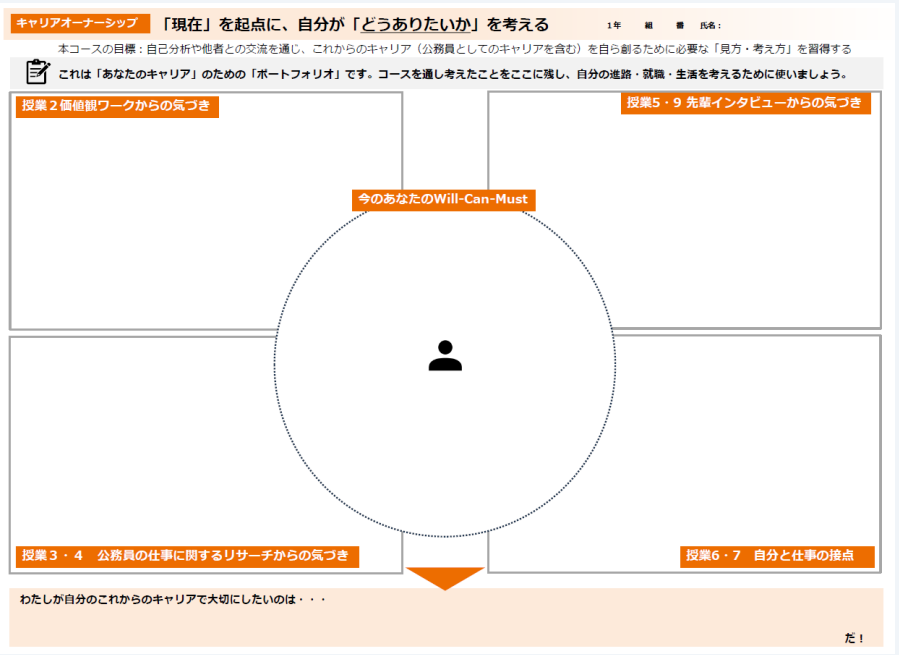
・授業内でのフィードバックサイクルを重視
・「成績づけ」ではなく「学習改善の手段」として活用

教員負担を軽減する客観的指標

・「記述量」「変化の有無」等に着目
・ルーブリックに基づき、評価基準を明確化・効率化

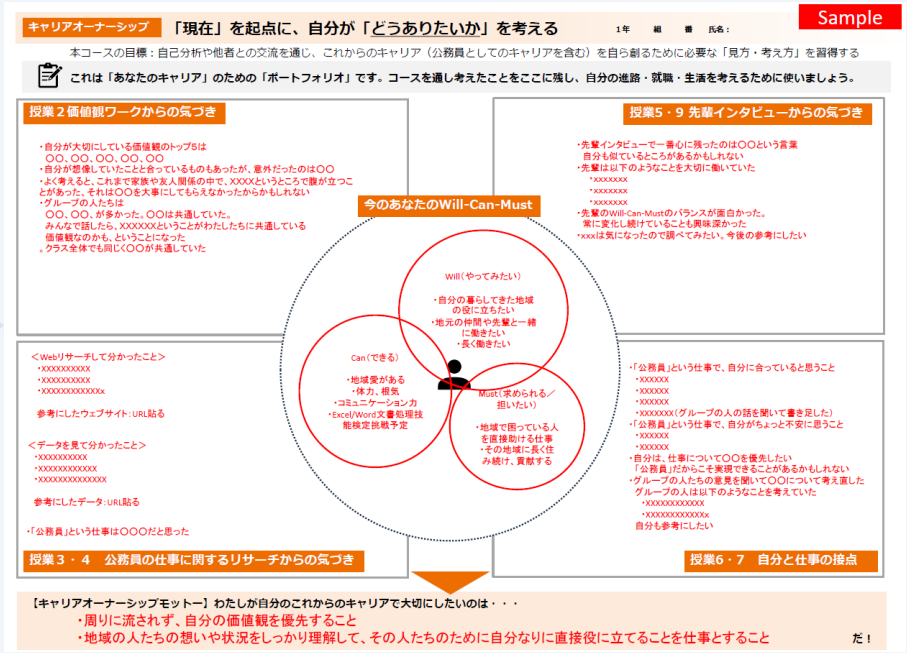
05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　ポートフォリオ

Start：学習開始時（白紙）



- 自己理解ワーク
  価値観・強みの分析
- 先輩インタビュー
  ロールモデルとの対話
- 学内共有・対話
  他者視点の取り入れ
- Will-Can-Must更新
  言語化と再構築

Goal：自身のキャリア観を言語化



05　科目別詳細　キャリアオーナーシップ育成科目　ルーブリック

形成的評価（過程評価）　　最終成果物だけでなく、ポートフォリオを通じた「思考の深まり」や「態度変容」のプロセスを重視して評価する。

評価観点	Level 4：発展（S） 期待を大きく上回る	Level 3：標準（A） 到達目標を満たす	Level 2：基礎（B） 努力を要する	Level 1：未到達（C） 再指導が必要
自己理解の深化	自身の価値観や強みを原体験や具体的なエピソードと論理的に結び付け、説得力を持って語ることができる。	自身の価値観や強みを言語化し、それに関連する具体的な経験を挙げて説明することができる。	ワークシートの項目を埋めることはできるが、記述が抽象的で、具体的な根拠や経験との結びつきが弱い。	自己分析が不十分で、自身の価値観や強みについての記述が乏しい、または空欄が目立つ。
対話と内省	他者の多様な視点を積極的に取り入れ、自身のキャリア観を柔軟に再構築（アップデート）している。	他者の意見を肯定的に受け止め、自分との違いや共通点に気づき、ポートフォリオに記録している。	グループワークに参加し、他者の意見を聞くことはできるが、自身の考えとの比較や内省が浅い。	他者の意見に関心が薄く、自身の考えに固執している。グループワークへの参加が消極的である。
キャリア構想	3つの重なりから独自性のある「キャリアの軸」を導き出し、社会との接点を踏まえた将来像を描いている。	Will-Can-Mustの3要素を整理し、自分なりのキャリアの方向性（公務員等）を見出している。	Will-Can-Mustの各要素について、現時点での考えを記述できているが、統合的な視点が不足している。	各要素の整理が不十分で、キャリアの方向性が定まっていない。記述に矛盾や混乱が見られる。
主体的な行動	気づきを具体的な行動計画（試験対策、ボランティア等）に落とし込み、既に着手・継続している。	次の目標を設定し、今後取り組むべきこと（To-Do）を具体的に挙げることができている。	授業を通じて、今後の課題や目標について考える姿勢は見られるが、具体的な行動計画には至っていない。	今後の目標や行動について具体的な記述がない、または「特になし」等の記述にとどまる。

05　科目別詳細　キャリアデザイン育成科目　設計思想

「社会課題」を自分事として捉え、解決プロセスを通じて「公務員としてのキャリア」を具体化
座学を超えた実践と省察の往還による学び

社会・地域課題との接続

・地域課題を「自分事」として捉え、公務員の役割を理解
・自己のキャリアと**社会貢献の接点**を見出す

現場起点の実践型学習

・ 机上の空論ではなく、実際のデータや現場の声に基づく
・企画立案プロセスを通じた**課題解決力の育成**

思考を支援するデジタル活用

・調査・分析・資料作成の効率化ツールとしてAIを活用
・思考の主体はあくまで**人間（学生）**にあることを重視

プロセス重視の形成的評価

・最終成果物だけでなく、協働姿勢や試行錯誤を評価
・リフレクションによる**言語化と振り返り**を促進

05　科目別詳細　キャリアデザイン育成科目　15コマ構成案

Phase 1：地域理解・現場理解

01
オリエンテーション
授業のゴール設定とチームビルディング

02
地域データの分析
RESAS等を用いた地域の定量的理解

03
地域資源の棚卸し
地域の魅力・強みの再発見と整理

04
行政課題のインプット
自治体職員による現状と課題の講義

05
フィールドワーク準備
仮説設定と現地調査計画の立案

Phase 2：課題発見・企画立案

06
フィールドワーク
現場観察・ヒアリングによる一次情報収集

07
課題の深掘り
調査結果の統合と本質的課題の特定

08
解決策のアイデア出し
デジタル活用を含めた解決策の発想

09
企画の具体化
実現可能性・効果の検証と企画骨子作成

10
中間発表
企画素案のプレゼンテーションとFB

Phase 3：発表・振り返り

11
企画のブラッシュアップ
FB反映と詳細設計・収支計画等の検討

12
提案資料作成
説得力のある提案書の作成とデザイン

13
発表リハーサル
伝え方の工夫と相互チェック・修正

14
最終成果発表会
自治体職員・関係者への正式提案

15
全体振り返り
活動プロセスの評価と学びの言語化

05　科目別詳細　キャリアデザイン育成科目　コマシラバス（抜粋）

主要学習プロセスの展開（抜粋）

第2回：地域リサーチと仮説設定　Phase 1

ねらい　データ（RESAS等）を活用し、地域の現状と課題を客観的に把握する。
活動　統計データの収集・分析、課題仮説の立案と共有。
成果　地域分析シート（仮説案）

第6回：フィールドワーク（現場取材）　Phase 2

ねらい　現場の「生の声」を聞き、一次情報から課題の本質に迫る。
活動　自治体職員や地域住民へのインタビュー、現地観察と記録。
成果　フィールドワーク記録、インタビューログ

第14回：最終成果発表　Phase 3

ねらい　解決策を論理的・魅力的に提案し、フィードバックを得て改善につなげる。
活動　スライドを用いた企画プレゼンテーション、質疑応答。
成果　最終企画書、発表スライド

できるようになること（到達目標）

地域の現状を「客観的データ」と「現場の声」の両面から捉えることができる
課題に対して当事者意識を持ち、実現可能な解決策を企画・立案できる
チームで協働し、多様な意見を取り入れながら合意形成できる

学習活動の特徴（PBL型）

フィールドワーク重視
教室を出て、地域社会や行政現場と接点を持つ機会を設ける

データ駆動
RESAS等の公的統計を活用し、感覚だけでなく根拠に基づく分析を行う

デジタル活用
調査分析、資料作成、協働ツールなど実践的にPC/AIを活用する

成果物・評価の視点

成果物
調査分析レポート、企画提案書、プレゼンテーション資料

評価
提案内容の良し悪しだけでなく、調査プロセス、チームへの貢献度、修正能力を重視

05　科目別詳細　キャリアデザイン育成科目　評価の考え方

地域課題解決に向けた「プロセス」と「成果物」を多角的に評価する設計

成果物による評価

・企画書やプレゼン資料を評価対象とする
・提案の論理性、実現可能性、表現力を重視

協働プロセスへの貢献

グループワークにおける役割遂行と貢献度
対話、合意形成、チームビルディングの姿勢を評価

社会・地域課題の理解度

・フィールドワーク等を通じた現状把握の深さ
・地域の課題を自分事として言語化する力

形成的評価（プロセス重視）

・最終結果だけでなく、中間発表やフィードバックへの対応を評価
・試行錯誤を通じた改善と成長のプロセスを重視

05　科目別詳細　公務員試験傾向分析科目　設計思想

本格的な試験対策の前に、合格に必要な「基礎体力」と「学習の型」を形成
生成AIを活用し、効率的に情報を処理する新しい学習スタイルを確立

試験対策の土台形成

・「なんとなく」の学習から脱却
・合格に必要な**優先順位と学習計画**を明確化

読解・作文・AI基礎

・あらゆる試験の基礎となる「精読力」
・論理的な**構成力とAIリテラシー**の習得

効率的な情報整理

・膨大な自治体資料から要点を抽出
・AIを補助に**「評価されるポイント」**を即座に把握

プロセス重視の評価

・単なる点数評価からの脱却
・AIを**「思考の補助」**として使いこなす過程を評価

05　科目別詳細　公務員試験傾向分析科目　15コマ構成案

Phase 1：読解力・作文基礎

01
読解力の重要性
助詞と係り受けによる正確な文脈把握

02
文の構造把握
指示語・省略・言い換えの理解と整理

03
推論と図表
図表と文章の照合、具体例の特定

04
読解力確認テスト
習熟度の確認と解説・フィードバック

05
作文演習（導入）
過去問を活用した構成メモの作成

Phase 2：作文力・AI基礎

06
表記と表現
誤字脱字、「ら抜き言葉」等の修正

07
文体と接続詞
常体・敬体の統一、接続詞の適切な使用

08
論理的整合性
主語・述語の対応、矛盾の解消

09
生成AIの基礎
機械学習・ディープラーニングの仕組み

10
代表的生成AI
ChatGPT等の特徴と基本操作の理解

Phase 3：AI活用・傾向分析

11
プロンプト基礎
構成要素と効果的な指示の出し方

12
プロンプト演習
テンプレート活用とハルシネーション

13
権利とリスク
画像生成AIの活用と著作権・倫理

14
自己分析（AI）
生成AIを活用した客観的自己分析

15
自治体傾向分析
採用情報・施策のAI分析と整理

05　科目別詳細　公務員試験傾向分析科目　コマシラバス（抜粋）

カリキュラムガイド（抜粋版）

第1回：読解力の重要性・助詞

読解力育成

ねらい：　「なんとなく読む」から脱却し、助詞や係り受けに基づく正確な読解の重要性を理解する

活動：　公務員試験における読解力の位置づけ解説／短文を用いた「誤読」体験／助詞による意味変化のワーク

成果物：　読解力確認ミニテスト結果

第5回：作文力育成（誤字・文体）

作文力育成

ねらい：　減点されない作文の基礎（誤字脱字・文体統一）を習得し、自己添削の視点を持つ

活動：　過去問を用いた短文記述演習／相互チェック（誤字・「だ・である」調の統一確認）

成果物：　作文答案（第1稿）

第10回：生成AIの基礎知識

生成AI活用

ねらい：　生成AIの仕組みと特性（得意・不得意）を理解し、ハルシネーション等のリスクを学ぶ

活動：　LLMの仕組み解説／プロンプト演習（指示の具体性による出力変化の比較）

成果物：　プロンプト作成演習シート

できるようになること（到達目標）

文章を「構造と根拠」に基づいて正確に読み解くことができる

作文試験において、減点対象となる基本的なミスを回避できる

生成AIを「思考の代替」ではなく「壁打ち相手・整理ツール」として適切に活用できる

学習活動のポイント

インプット：試験傾向に基づいた「読み方」「書き方」の型を理解

アウトプット：過去問や短文作成を通じた実践演習

デジタル活用：AI出力のファクトチェックや、AIによる別視点の提示を活用した自己修正

成果物・形成的評価

主な成果物：読解力テスト、作文添削履歴、プロンプト演習ログ

評価の視点：正答率だけでなく、「なぜそう考えたか」のプロセスの言語化や、AIに対する批判的思考（クリティカルシンキング）の有無を重視

05　科目別詳細　公務員試験傾向分析科目　評価の考え方

「知識の暗記」を問う定期試験中心の評価ではなく、
読解・作文・AI活用などの「基礎スキル」を多角的に評価する仕組み。

多角的評価の実践

・定期試験一本化からの脱却
・読解力テスト、作文課題、確認テスト等を
組み合わせた**総合評価**

読解・表現力の可視化

助詞・論理構成に基づく「誤読しない力」と、
減点されない**「正確な文章力」**を評価対象

AIリテラシーの測定

・「プロンプトテスト」の導入
・ AIからの回答精度ではなく、適切な**指示・対話**
プロセスを評価

形成的評価の重視

単発の点数評価だけでなく、修正プロセスや振り返り
を通じた**「学習姿勢の変容」**を重視

05　科目別詳細　公務員試験直前対策科目　設計思想

「知識の理解」から「得点力」への転換
合格に必要な実戦力を磨くと同時に、デジタルツールを活用した自律的な学習習慣を確立する

実戦対応力の強化

・制限時間内での解答精度や、面接での即応力を磨く
・「わかる」を「できる」に変え、**合格する力**を養う

生成AIを活用した自走学習

・作文添削や模擬面接に生成AIを活用
・学生自身がフィードバックを得て改善を繰り返す
自走型学習へ

教員負担の軽減と質的転換

・膨大な添削業務をAIが補助し、負担を軽減
・教員は精神的なケアや**本質的な指導**に注力する

形成的評価とデジタル活用

・結果だけでなく改善プロセスやAI活用スキルを評価
・デジタルツールはあくまで**補助手段**として位置づける

05　科目別詳細　公務員試験直前対策科目　15コマ構成案

Phase 1：自治体対策・作文基礎

01
自治体直前対策
自己PR・志望動機の整理とAI活用

02
自治体のAI活用
行政のDX事例と課題・リスク理解

03
作文試験対策①
国家一般職過去問演習とAI添削

04
作文試験対策②
市役所等過去問演習とAI添削

05
作文試験対策③
公安職過去問演習とAI添削

Phase 2：教養試験・AI演習

06
一般教養対策①
国家一般職過去問とAI解説

07
一般教養対策②
特別区過去問とAI解説

08
一般教養対策③
東京消防庁過去問とAI解説

09
教養演習（デジタル）
デジタル教材演習とAI作問

10
教養演習（デジタル）
苦手分野のAI作問による補強

Phase 3：総仕上げ・面接対策

11
教養演習（デジタル）
継続的なAI作問演習と解説

12
教養演習（デジタル）
演習成果の確認と最終調整

13
面接試験対策①
面接基本スキルと1分間トレーニング

14
面接試験対策②
長所・短所作成とAI面接練習

15
面接試験対策③
模擬面接とAI面接履歴の活用

05　科目別詳細　公務員試験直前対策科目　コマシラバス（抜粋）

第1回：自治体等直前対策・AIリテラシー　導入・情報収集

ねらい	最新の採用情報を整理し、生成AIを活用して志望動機・自己PRを再構成する
学習活動	AIを用いて自治体資料の要点を抽出し、自身の経験と照らし合わせてエントリーシート骨子を作成
成果物	志望動機・自己PRのドラフト案（AI活用版）

第3回：作文試験対策①（AI添削実践）　文章力強化

ねらい	過去問演習を通じて、AIによる即時フィードバックを活用し、構成案の修正サイクルを体験する
学習活動	国家一般職等の過去問で作文し、AIプロンプトで「誤字脱字」「論理構成」をチェック・修正する
成果物	AI添削前後の作文比較レポート

第14回：面接試験対策②（AI模擬面接）　実践演習

ねらい	想定問答の暗記ではなく、質問意図を即座に汲み取り、矛盾なく回答する力を養う
学習活動	音声入力対応AIとの模擬面接を行い、回答の明瞭さや論理矛盾を客観的に検証・修正する
成果物	面接練習ログと改善シート

生成AIを「専属コーチ」として活用

従来は教員が行っていた「作文添削」や「面接壁打ち」を、生成AIで一次対応

「書いて待つ」時間を削減し、授業内で何度も「書いて直す」サイクルを回せる

教員はAIでは判断できない「志望の熱意」や「人間味」の指導に注力可能

「理解」から「得点」への転換

「傾向分析科目」で培った基礎の上に、時間制限下でのアウトプット力を養成

知識のインプットは最小限にし、過去問演習と修正プロセスを重視

「なぜ間違えたか」「どうすれば伝わるか」を言語化させ、再現性を高める

「自走できる受験生」を育て、合格後の業務遂行力へつなげる

05　科目別詳細　公務員試験直前対策科目　評価の考え方

一発勝負の「定期試験」から脱却し、合格に必要な「実戦力」と自律的な「改善プロセス」を重視した
多面的な評価設計へ転換

形成的評価への転換

・定期試験の結果だけでなく、授業ごとの到達度を重視
・「できない」を「できる」に変える**改善プロセス**を評価

多角的な成果物評価

・作文添削結果、模擬試験スコア、面接練習ログ等
・多面的な成果物で**「合格水準」への到達度**を測定

自走性の評価

・教員指示待ちではなく、自ら課題を見つけ修正する姿勢
・AIフィードバックを活用した**自律的な学習行動**を評価

デジタル・AI活用力

・解答生成ではなく、壁打ち相手としてのAI活用
・適切なプロンプトによる**学習効率化・深化**を評価対象に

06　令和7年度の成果

教材レベルまで具体化された「すぐに使える」カリキュラムモデルを構築

開発カリキュラム

4 科目モデル

キャリア形成と試験対策の体系的モデルを設計

教材開発ボリューム

各 **100** ページ超

スライド・指導案を含む授業資料を全科目分作成

パッケージ化

一体設計

授業運営・評価基準・教材をセットで構築

標準化

再現性確保

属人性に依存せず質の高い授業を展開可能

次年度の実証・全国展開に即座に移行可能な基盤が完成

07　委員会・視察を通じた観点

カリキュラム設計プロセスにおいて、委員会での議論や視察を通じ、
新たなモデル構築に向けた重要な示唆が得られた

正解のない問いへの向き合い方

・教える授業から、共に考える授業へ
・自ら問いを立て探究するプロセスを重視

形成的評価の有効性

・成果物だけでなくプロセスを評価
・ポートフォリオによる継続的なフィードバックが鍵

デジタルは目的ではなく手段

・AIは思考を深めるための補助ツール
・正確性を見極め、主体的に使いこなす力が不可欠

学び続ける姿勢の重要性

変化の激しい時代に対応するため、合格後も 自律的に学び続ける内発的動機を育む

08　令和7年度 事業総括

「モデル具体化フェーズ」として計画された全工程を完了
次年度の実証に向け、4科目のカリキュラムと評価基盤を確立

4科目の開発

キャリア形成、試験対策の合計4科目を開発
各科目15コマのシラバスおよび教材構成を具体化

デジタルツール活用の実践

生成AIを「思考の補助」として組み込む指導法を確立
AIリテラシーと主体性を同時に育む学習環境を設計

形成的評価モデルの導入

プロセスを重視した評価指標を策定
ポートフォリオ運用による成長の可視化を実現

産学官連携による質保証

現場ニーズと教育効果の整合性を検証
実務家視点を取り入れた公務員として通用する内容へ昇華

０９　課題と今後の展望

課題 ①

ＤＸ人材としての成長評価・コンテンツ

本教材がＤＸ（デジタル人材）としての成長評価・成長コンテンツとしてなりえるかを更に追及していく。

課題 ②

既設科目との連動および差別化

既存の科目と重複しないよう役割を明確化。
新科目が既存科目と連携し、相乗効果を生み出す設計が不可欠。

4つの主要課題

課題 ③

公務員志望者増への寄与（見通しと効果）

在校生の志望の質を高めるだけでなく、「公務員学科志望者数」の増加に本プログラムがどう寄与できるか、具体的な見通しを持つ必要がある。

課題 ④

客観的評価指標の導入（成果測定の高度化）

アンケート等の主観的指標に加え、行政インターンシップ参加率など、第三者視点でも成果を測れる「客観的指標」の導入を検討すべきか。

次年度の実証講座をとおしてブラッシュアップしていく

０９　課題と今後の展望

「モデル構築」から「実証・検証」フェーズへ移行
実際の教育現場での運用を通じ、教育効果の可視化と普及モデルの確立を段階的に進める

STEP 1

カリキュラムの実証
Validation

開発した4科目の実証講座を実施
現場適合性と学生の反応を確認し**内容を改善・最適化**

STEP 2

教育効果の測定
Measurement

学習前後の変容を定量・定性で評価
コンピテンシー評価および**ルーブリックの有効性**を検証

STEP 3

教員研修の実施
Training

教員向け研修の実施
デジタル・生成AI活用指導の**ノウハウ標準化**を図る

STEP 4

他校展開への準備
Expansion

成果報告会を通じた実践事例の共有
導入容易な**教材パッケージ仕様**の検討・策定

10　事業終了後の展開

全国専門学校への モデル普及

構築した標準モデルのノウハウを展開。
地方公務員志望者の**底上げと質の向上**に寄与し、
業界全体の教育レベルを引き上げる。

教材・ツールの オープン化

開発したシラバス・教材・評価指標を公開。
各校が自校の実情に合わせて**カスタマイズ可能な資産**として提供し、導入ハードルを下げる。

持続可能な 人材育成モデルとして 定着・進化

一過性の事業で終わらせず、
地域と教育の恒久的な資産へ

継続的な 改善サイクル

導入校からのフィードバック収集とモデル更新。
変化の激しいデジタル技術に対応する**進化する カリキュラム**を維持し、陳腐化を防ぐ。

地域行政との 連携強化

自治体と学校が連携したプラットフォーム構築。
地域課題解決を通じた**実践的教育と採用マッチン グ**を促進し、地域定着率を向上させる。